



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. IM-PDFCoordinator for Accel Platform のエディション
 - 2.5. 用語解説
- 3. インストール前に
 - 3.1. 全体のインストール作業の流れ
 - 3.2. 必要なライセンス
 - 3.3. インストール前に必要な確認事項
 - 3.4. 正常に動作しない環境
 - 3.5. 注意事項
- 4. インストール・環境設定
 - 4.1. PDFメイクアップ のインストール
 - 4.2. プロジェクトの作成とモジュールの選択
 - 4.3. セキュリティ機能（Security） の閲覧制限機能を使用する場合
- 5. アンインストール
 - 5.1. 作業前に...
 - 5.2. IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除
 - 5.3. Windows の場合
 - 5.4. Linux の場合
- 6. 既存環境のバージョンアップ
 - 6.1. warファイルの再デプロイ
 - 6.2. PDFメイクアップ の再インストール
- 7. 【補足】 intra-mart e Builder for Accel Platform との連携方法
 - 7.1. 環境構築手順
 - 7.2. intra-mart e Builder for Accel Platform 用の環境変数設定
- 8. 付録
 - 1. 連携エンジンバージョン
 - 2. IPAフォント の切替方法
 - 3. フォント埋め込み設定

変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版 下記を追加・変更しました。 ■ ドキュメント全般 Windows Server 2012 向けの記述を追加
2015-07-01	第3版 下記を追加・変更しました。 ■ 設定ファイルの編集の記述を追加
2016-08-01	第4版 下記を追加・変更しました。 ■ 「【補足】 intra-mart e Builder for Accel Platform との連携方法」の記述を追加
2016-12-01	第5版 下記を追加・変更しました。 ■ 「はじめに」→「前提条件」の記述を追加 ■ 「正常に動作しない環境」からシンクライアントの制限を削除
2017-04-01	第6版 下記を追加・変更しました。 ■ 「既存環境のバージョンアップ」の記述を追加
2018-04-01	第7版 下記を追加・変更しました。 ■ 「PDFメイクアップのインストール」を修正 ■ 「はじめに」を修正 ■ 「既存環境のバージョンアップ」を修正
2018-08-01	第8版 下記を追加・変更しました。 ■ 「はじめに：前提条件」で「PDFメイクアップ インストール・ガイド」の文書プロパティをクリア ■ 「はじめに：前提条件」で「セキュリティ機能の動作条件」の文書プロパティをクリア ■ 「はじめに：前提条件」で「対応PDFファイルにつきまして」の文書プロパティをクリア
2018-12-01	第9版 下記を追加・変更しました。 ■ 「PDFメイクアップのインストール」の章で「OSを再起動してください。」と追加 ■ 「既存環境のバージョンアップ」の章で「OSを再起動してください。」と追加 ■ 表記のゆれを訂正
2020-04-01	第10版 下記を追加・変更しました。 ■ Windows 7 / Windows Server 2008 の記述を削除 ■ 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」に「アプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。」と追加 ■ UACの監視下にあるディレクトリをインストール先として避ける記述を追加 ■ 「PDFメイクアップ インストール・ガイド」を更新

変更年月日	変更内容
2020-12-01	第11版 下記を追加・変更しました。 「前提条件」の「セキュリティ機能の動作条件」を削除（当該ドキュメントのシステム要件に関する記述を、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform リリースノート」へ移行） 「前提条件」の「対応PDFファイルにつきまして」を削除（当該ドキュメントのシステム要件に関する記述を、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform リリースノート」へ移行） 「インストール・環境設定」 「環境変数の設定」の記述を変更 「既存環境のバージョンアップ」 「環境変数の設定」の記述を変更 「付録」を追加 「連携エンジンバージョン」を追加
2021-04-01	第12版 下記を追加・変更しました。 「必要なライセンス」にライセンスの入力方法についての記述を追加 「連携エンジンバージョン」を更新
2021-08-01	第13版 下記を追加・変更しました。 「PDFメイクアップ インストール・ガイド」を更新 「連携エンジンバージョン」を更新
2021-12-01	第14版 下記を追加・変更しました。 「インストール・環境設定」に「【Linux 環境】」を追加 「アンインストール」に「Linux の場合」を追加 「連携エンジンバージョン」を更新 「インストール・環境設定」の「【Windows 環境】」で32bitに関する記載を削除 「【Windows 環境】」の「環境変数の設定」で jar ファイル名を makeup-win.jar に変更 「Windows の場合」の「JAR ファイルの削除」で jar ファイル名を makeup-win.jar に変更
2022-06-01	第15版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジンバージョン」に 2022 Spring に対応したバージョンを追加
2022-12-01	第16版 下記を追加・変更しました。 「IPA フォント の切替方法」を追加 「フォント埋め込み設定」を追加 「連携エンジンバージョン」に 2022 Winter に対応したバージョンを追加
2023-04-01	第17版 下記を追加・変更しました。 「IM-PDFCoordinator for Accel Platform のエディション」を追加 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」にエディションに関するコラムを追加 「連携エンジンバージョン」に 2023 Spring に対応したバージョンを追加

目次

- 本書の目的
- 前提条件
 - セキュリティ機能 (Security) の前提条件
- 対象読者
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform のエディション
- 用語解説

本書の目的

本書では IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップ手順について説明します。

前提条件

1. intra-mart Accel Platform サーバで運用される場合を前提しております。
2. 以下のドキュメントに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。
 - 「IM-PDFCoordinator for Accel Platform リリースノート」
 - 「**PDFメイクアップ インストール・ガイド(Windows版)**」
 - 「**タブレットや携帯端末において弊社製品から作成されるPDFファイルを表示する際の注意点**」
3. 重要 注意事項
 - PDFファイルのオープンパスワードとセキュリティパスワードは、同一にしないでください。
 - パスワードを同一にしますとPDFファイルを開いた状態で、PDFファイルの編集加工が可能となってしまいます。このため、セキュリティ用のスクリプト等が解除可能になります。

セキュリティ機能 (Security) の前提条件

1. Adobe Reader上の設定条件
 - 「環境設定」→「JavaScript」→「Acrobat JavaScript を有効にする」をONにする必要があります。
 - メニュー構成は、Adobe Readerのバージョンに依存するため、ご利用中のバージョンに合わせて適宜読み替えてください。
2. 「IM-QuickBinder ダウンロードプロテクション」と同等の機能ではありません。
 - PDFファイルのダウンロードは出来ます。
 - 画面のキャプチャは出来ます。
 - PDFファイルのみが対象です。
 - PDFファイルにパスワードが付与されており、パスワードがわからない場合、セキュリティを付与することはできません。
 - 前提として、Adobe Reader/Acrobatが適切な環境設定で動いている必要があります。
 - URL制限の機能を利用する場合、Adobe Reader/Acrobatの設定にて「JavaScript許可」「インターネットブラウザにてPDFをブラウザで表示するにチェック (URL指定の場合)」が必要です。
3. 保存場所制限の場合の文書管理注意事項
 - URL指定機能は、実際にAdobe Readerが認識するURLで判断します。必ず想定している環境 (Adobe ReaderおよびIE等) にて事前確認をお願いします。
 - URL制限の仕組みでは、「まったく同じURLを構築された場合見えてしまう」というリスクがあります。このため、URLを外部に知らせないことが重要です。エラー画面等にPDFファイルに設定されているURL表示することは避けてください。また、できる限り可変のURL (URLにハッシュ値を含める等...) を指定することを推奨します。ファイルをユニークな場所にコピー⇒そこのみ見えるURLを指定して処理⇒ユーザに見せる⇒一定時間が経過した後は上記のファイルを削除 する等の運用を推奨します。

4. セキュリティ付のPDFファイルの作成のタイミングと、サムネール処理との関係

- セキュリティ付与されたPDFファイルのサムネールは作成できません。
このため、サムネールの作成が必要なシステムと同居する場合には、セキュリティ付のPDFファイルを作成するタイミングに注意してください。
- 事前に作成
事前にすべてのPDFファイルに先にセキュリティを付与します。この方法は速度面でメリットがあります。
- 閲覧時にその都度作成
閲覧要望ごとにセキュリティを付与します。
事前に作成してしまったほうが、ユーザとしてストレスが発生しませんが、その場合はPDFファイルにセキュリティがかかっておりサムネールが作成できませんので注意してください。
- 閲覧制限付PDFファイルは制限（抜け道）のあるセキュリティ機能です。
個人情報等の100%情報漏えいさせたくないような場合には向いていません。そのような場合はPDFファイルのオープンパスワードを使用してください。
あくまでセキュリティが強化されるという認識でご利用ください。

5. サポートするPDFファイルの種類

- サポート対象のPDFファイルの種類についての詳細は、添付資料を参照してください。
- 添付資料のPDFファイルでも、別途有償にてサポート可能な場合があります。

6. セキュリティ強度について

- ファイルを開くためのパスワード（以下、オープンパスワード）のセキュリティは、ファイルの中身を暗号化するため強固です。
 - ファイルの中身が暗号化されますので、オープンパスワードがわからない限り閲覧することはできません。
 - 非常に重要な文書に関しては、オープンパスワードを併用することを推奨します。
- 総当たり攻撃を考慮した場合、強度はパスワード長さに依存します。20文字以上にすることで総当たり攻撃にも耐える強度が確保されますが、パスワードの長さは現実の運用を考えてご判断ください。
- セキュリティパスワードの強度は、オープンパスワードより低いです。これは、セキュリティパスワードはファイルの中身を暗号化している訳ではなく、印刷/編集等の利用可否をフラグで制御していることに起因します。
- PDFファイルの規格上のセキュリティと、JavaScriptで強制的に稼働するセキュリティとで制限が異なります。
 - パターンとしては以下の3種類（JavaScriptで2つに分岐）があります。
 - 1. オープンパスワード/セキュリティパスワード/JavaScript
 - 2. オープンパスワード/セキュリティパスワード
 - 3. セキュリティパスワード/JavaScript
 - オープンパスワードとセキュリティパスワードに同じ文字列を指定しないでください。
 - JavaScriptのみのセキュリティでは、JavaScriptの中身が見えてしまうため、セキュリティパスワードとの併用を推奨します。
 - セキュリティパスワードをユーザに周知する運用も、JavaScriptの中身が見えてしまうため推奨しません。

7. 有効期限の設定

- 有効期限の設定は、年月日で指定可能です。時間は指定できません。
- 時間を指定した場合、時間の指定は無視されます。
- 2013/05/30 ~2013/05/30 と指定した場合、2013/05/30中はPDFを開くことができます。
- 期限の日付は、PDFファイルを開いているマシンの日付が適用されます。

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- intra-mart Accel Platform サーバでの IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップを行われる方

IM-PDFCoordinator for Accel Platform のエディション

IM-PDFCoordinator for Accel Platform は次の2種類のエディションが存在します。

- IM-PDFCoordinator for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator FullPack for Accel Platform

詳細については、「[IM-PDFCoordinator for Accel Platform リリースノート](#)」 - 「[機能一覧](#)」を参照してください。

用語解説

- Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
- Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE_HOME% と略します。
- Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。
- Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB_PATH% と略します。
- PDFメイクアップ をインストールしたディレクトリを %PDFMAKEUP_HOME% と略します。

項目

- 全体のインストール作業の流れ
- 必要なライセンス
- インストール前に必要な確認事項
- 正常に動作しない環境
- 注意事項

全体のインストール作業の流れ

IM-PDFCoordinator for Accel Platform は、以下の手順でインストール作業を進めます。

1. intra-mart Accel Platform サーバ 1台 で運用する場合
 1. PDFメイクアップ のインストール
 2. 環境変数の設定
 3. warファイルのデプロイ
 4. jarファイルの配置
 5. 設定ファイルの配置
 6. 設定ファイルの編集
 7. サンプルの実行
 2. intra-mart Accel Platform サーバ 複数台（分散環境） で運用する場合
上記、「intra-mart Accel Platform サーバ 1台 で運用する場合」 の手順を、サーバ台数分 実施してください。
- いずれの場合も、付属のサンプルプログラムが正常に動作することを確認し、インストール作業は完了です。

必要なライセンス

IM-PDFCoordinator for Accel Platform をご利用いただくには、以下のライセンスが必要になります。

製品のインストールの際にライセンスを入力してください。

ライセンスが未入力の状態では動作しませんのでご注意ください。

- PDFメイクアップ のライセンス

インストール前に必要な確認事項

インストール前に、必ず以下を設定・確認してください。

- OSの最新のパッチをインストールしてください。
- 必ずインストールするマシン自体に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。ネットワーク管理者権限（Network Administrator）があっても、そのマシン自体の管理者権限（Administrator）がないことも考えられます。

正常に動作しない環境

- 正常に動作しない環境については、各製品マニュアルを参照ください。

注意事項

以下を事前にご確認ください。

- ウイルスソフトによっては、ウイルスチェック時にファイルを掴むものがあります。PDF処理に影響がでる場合は、作業フォルダをウイルスチェックの対象から外す必要があります。

IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップに必要な次のインストール、および、設定を行います。

intra-mart Accel Platform サーバでの作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform サーバを複数台用意する場合は、すべての intra-mart Accel Platform に次の作業を実施してください。

PDFメイクアップ のインストール

項目

- [【 Windows 環境】](#)
- [環境変数の設定](#)

【 Windows 環境】

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. PDFメイクアップ のインストーラを起動して、マニュアルに沿ってインストールしてください。
3. OSを再起動してください。



コラム

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

PDFメイクアップ のインストール先に、「Program Files」等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

（インストール先の例） C:\tool\PDFMakeup



コラム

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを推奨します。

インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン番号をパスに含めた場合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

環境変数の設定

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 次の環境変数を設定します。
通常であればシステムの環境変数に設定いただければ問題ありません。
サーバ上に、PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ/bin が既に指定されている場合は、それよりも前に設定してください。

環境変数名	設定内容
PATH	%PDFMAKEUP_HOME% /bin

3. 次を設定してください。
intra-mart Accel Platform サーバの共通libフォルダ（%RESIN_HOME%/libが一般的）に <makeup-win.jar> ファイルを配置します。
<makeup-win.jar> ファイルは、<lib/win>フォルダにあります。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup-win.jar

4. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行してください。

```
> ypdfmulc
```

5. 次の画面が表示されれば環境変数の設定は完了です。



コラム

環境変数設定後は、必ずResinをプロセスごと再起動してください。

項目

- [【Linux 環境】](#)
- [環境変数の設定](#)

【Linux 環境】

次の手順でインストールしてください。

1. PDFメイクアップ セットアップファイルをコピーします。
 < install/lnx > フォルダ内の < pmuX.X.X.linux.64.jp.tar > をインストール先にコピーします。
 インストール先を < /usr/local/ > として説明します。

```
$ cp [ディレクトリ]/lnx64/pmuX.X.X.linux.64.jp.tar /usr/local/.
```

2. 圧縮ファイルを解凍します。

```
$ cd /usr/local/
$ tar xvf pmuX.X.X.linux.64.jp
```



コラム

Resin を実行するユーザにて解凍します。

解凍された各ファイルの権限に、解凍したユーザ権限 (実行、参照権限) が付与されます。

3. 解凍されたディレクトリの名称を *pmu* に変更します。

```
$ mv pmuX.X.X.linux.64 pmu
```

4. ライセンスファイルを入力します。
 pmu/etc/license.txt にライセンスを入力します。

```
$ vi pmu/etc/license.txt
```

環境変数の設定

1. PDFメイクアップ を利用するための環境設定を行います。
 次の表に従い、環境変数を設定してください。

変数名	設定内容
-----	------

PDFMAKEUP %PDFMAKEUP_HOME% (末尾の"/"スラッシュなし)

```
$ PDFMAKEUP=/usr/local/pmu
```

```
$ export PDFMAKEUP
```

2. 各環境変数を設定します。

%PDFMAKEUP%/mu.sh に実行権限を追加して実行します。

```
$ chmod +x /usr/local/pmu/mu.sh
```

```
$ ./usr/local/pmu/mu.sh
```



コラム

mu.sh を実行すると次の環境変数が追加されます。

PATH	\$PDFMAKEUP/bin 追加
------	--------------------

LD_LIBRARY_PATH	\$PDFMAKEUP/lib 追加
-----------------	--------------------

3. 環境設定が正しく設定できていることを確認します。

バージョンが次のように表示されることを確認してください。

```
$ muvers
```

```
PDF Makeup Version x.x.x.x(linux/sjis)
```



コラム

環境変数設定後は、必ずResinをプロセスごと再起動してください。

4. jarファイルのコピー

intra-mart Accel Platform サーバの共通libフォルダ（%RESIN_HOME%/libが一般的）に <makeup-linux.jar> ファイルを配置します。

<makeup-linux.jar> ファイルは、imart フォルダにあります。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup-linux.jar

5. ファイルの権限設定

Resin を実行するユーザ以外で解凍してしまった場合、または、権限ユーザを変更する場合の手順を説明します。

6. 実行権限の設定

binディレクトリ内のすべてのファイルに実行(execute)権限を設定してください。

1. PDFメイクアップ をインストールしたディレクトリに移動します。
2. binディレクトリに移動します。
3. すべてのファイルに実行権限を付与します。

```
$ cd /usr/local/pmu/
```

```
$ cd bin/
```

```
$ chmod +x *
```

7. 参照権限の設定

次に示すファイルに参照(Read)権限を設定してください。

1. libディレクトリ内のすべてのファイルに参照権限を設定してください。
2. etcディレクトリ内のすべてのファイルに参照権限を設定してください。

```
$ cd /usr/local/pmu/

$ cd lib/

$ chmod +r *

$ cd etc/

$ chmod +r *
```

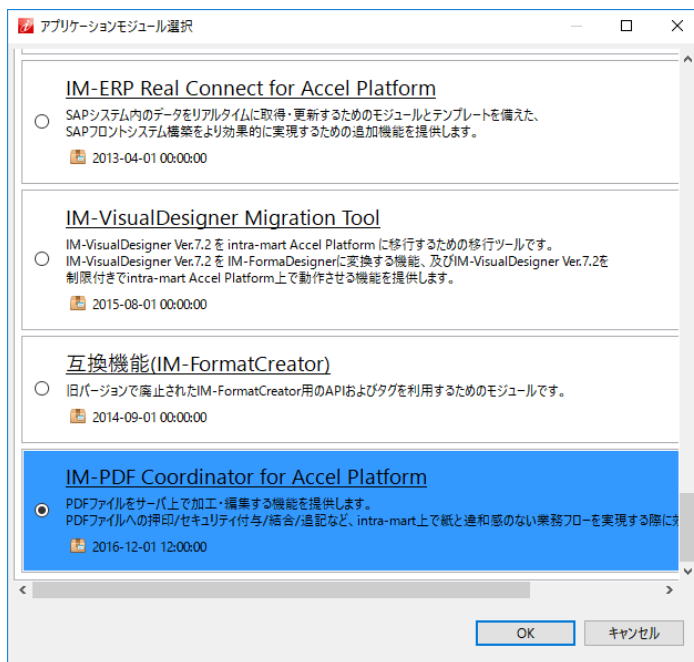
なお、サブディレクトリがある場合は、サブディレクトリ、および、サブディレクトリ内のファイルにも同様の権限を設定してください。

項目

- プロジェクトの作成とモジュールの選択
- セキュリティ機能（Security）の閲覧制限機能を使用する場合
 - 設定ファイルの編集

プロジェクトの作成とモジュールの選択

1. 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」にしたがって、プロジェクトを用意します。
プロジェクトの作業手順の詳細については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照してください。
2. IM-Juggling で利用するアプリケーションを選択する際に、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」を選択します。



コラム

2023 Spring のバージョンからエディションが「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」と、「IM-PDFCoordinator FullPack for Accel Platform」に分かれていますが、アプリケーションモジュールとしては同じです。

そのため、アプリケーションを選択する際は「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」を選択してください。



注意

次のアプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform
- IM-PDFDirectPrint for Accel Platform
- IM-PDFTimeStamper for Accel Platform



注意

既に IM-PDFCoordinator for Accel Platform を導入中で、IM-PDFCoordinator for Accel Platform 8.0.6 以降にバージョンアップする場合には、IM-Juggling のユーザモジュールから IM-PDFCoordinator for Accel Platform を削除してください。



コラム

アプリケーションは後で追加することもできます。追加する方法は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

3. WARファイルを生成しデプロイします。
WARファイルの生成及びデプロイの手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」を参照してください。

セキュリティ機能（Security）の閲覧制限機能を使用する場合

設定ファイルの編集

1. intra-mart Accel Platform に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. <pdfprotection.xml> ファイルを環境に合わせて修正してください。
3. 修正後 intra-mart Accel Platform を再起動してください。
4. 以上で作業は完了です。

ファイル	場所
pdfprotection.xml	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/WEB-INF/classes

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

  <!-- 一時フォルダ（未設定の場合は環境変数TMPまたはTEMPを使用） -->
  <entry key="tempdir"></entry>

  <!-- PDF編集モード -->
  <!-- URLセキュリティ、または、期間セキュリティを付与する場合に、フォーム、注釈、リンクを削除するかどうかを指定します。未指定の場合は0で初期化されます。 -->
  <!-- 0：フォーム、注釈、リンクを削除する -->
  <!-- 1：フォーム、注釈、リンクを削除しない -->
  <entry key="editmode">0</entry>
</properties>
```

intra-mart Accel Platform での作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform が複数台ある場合は、各 intra-mart Accel Platform に次の作業を実施してください。

項目

- 作業前に...
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除

作業前に...

Resinが停止されている必要があります。

IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除

1. IM-Juggling の「アプリケーション」タブで、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」のチェックマークを外して、war ファイルを作成します。
2. 作成したwarファイルを、Resinでデプロイします。



コラム

手順の詳細は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「intra-mart Accel Platform 構成ファイルの作成」および、「intra-mart Accel Platform の起動・停止」を参照してください。

項目

- Windows の場合
 - PDFメイクアップ のアンインストール
 - 環境変数の削除
 - JAR ファイルの削除

Windows の場合

PDFメイクアップ をアンインストールする手順を示します。

PDFメイクアップ のアンインストール

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルからプログラムの追加と削除を開き、PDFメイクアップ をアンインストールします。

環境変数の削除

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 次の環境変数を削除します。

環境変数名	設定内容
PATH	%PDFMAKEUP_HOME% /bin

JARファイルの削除

1. 次のファイルを削除します。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup-win.jar



コラム

複数台の intra-mart Accel Platform を利用している場合は、すべての intra-mart Accel Platform に対して実施してください。



注意

上記作業には、Resinが停止している必要があります。

項目

- Linux の場合
 - PDFメイクアップ のアンインストール
 - 環境変数の削除
 - JARファイルの削除

Linux の場合

PDFメイクアップ をアンインストールする手順を示します。

PDFメイクアップ のアンインストール

Linux での PDFメイクアップ のアンインストール手順を示します。

1. PDFメイクアップ をインストールしたディレクトリ< %PDFMAKEUP_HOME% >をディレクトリごと削除します。
< %PDFMAKEUP_HOME% >を< /usr/local/pmu/ >として説明します。

```
$ rm -r /usr/local/pmu/
```

環境変数の削除

Linux での環境変数の削除手順を示します。

1. 環境変数に設定されている PDFメイクアップ の設定値を削除します。

環境変数名	設定値
PDFMAKEUP	%PDFMAKEUP_HOME% （末尾の"/"スラッシュなし）
PATH	\$PDFMAKEUP/bin
LD_LIBRARY_PATH	\$PDFMAKEUP/lib

```
$ PATH= ($PATH から $PDFMAKEUP/bin を除外した値)
$ export PATH
$ LD_LIBRARY_PATH= ($LD_LIBRARY_PATH から $PDFMAKEUP/lib を除外した値)
$ export LD_LIBRARY_PATH
$ export -n PDFMAKEUP
```

JARファイルの削除

JARファイルの削除手順を示します。

1. Resin を停止させます。
2. JARファイル< makeup-linux.jar >を、< %RESIN_HOME%/lib >から削除します。

```
$ rm %RESIN_HOME%/lib/makeup-linux.jar
```

3. Resin を再起動させます。

intra-mart Accel Platform サーバでの作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform サーバを複数台用意する場合は、すべての intra-mart Accel Platform に次の作業を実施してください。

項目

- [warファイルの再デプロイ](#)
- [PDFメイクアップ の再インストール](#)

warファイルの再デプロイ

IM-Juggling で作成した warファイル を再デプロイします。

```
%RESIN_HOME%/webapps
```

PDFメイクアップ の再インストール

アンインストール(「[アンインストール](#)」参照)を実施後、再度、インストール(「[インストール・環境設定](#)」参照)を実施してください。

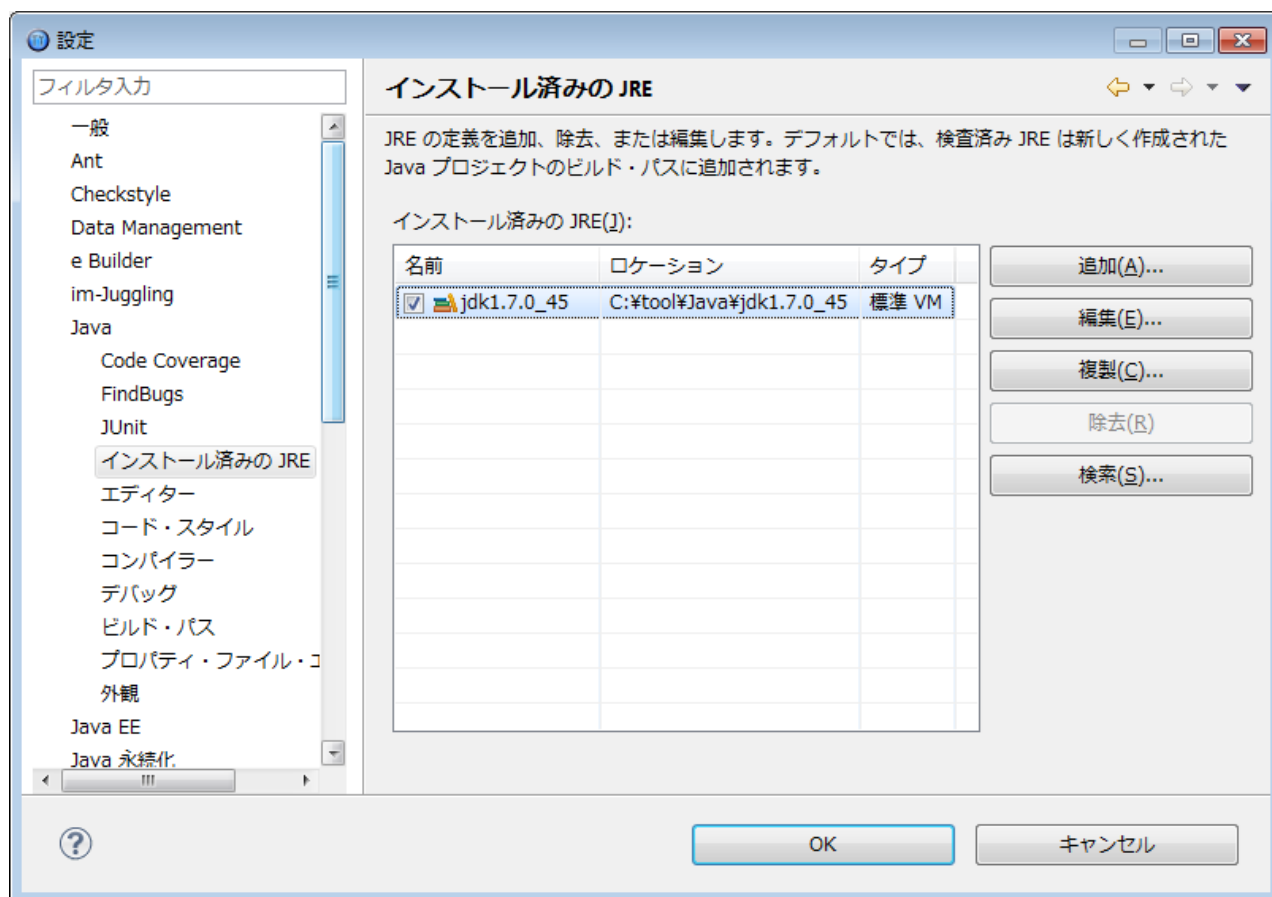
intra-mart e Builder for Accel Platform と IM-PDFCoordinator for Accel Platform を連携して開発ができます。
サポート環境は、intra-mart e Builder for Accel Platform のサポート環境に準じます。
インストール手順は、ご利用環境にあわせて適宜読み替えて作業してください。

環境構築手順

1. インストールマニュアルの手順に従って、intra-mart e Builder for Accel Platform をインストールします。
2. 上記で構築した intra-mart e Builder for Accel Platform 環境に、IM-PDFCoordinator for Accel Platform をインストールします（マニュアルの手順に沿ってインストールをお願いいたします）。具体的には、以下の3点の作業が必要です。
PDFメイクアップ のインストール
IM-PDFCoordinator for Accel Platform のインストール
環境設定
3. intra-mart e Builder for Accel Platform の環境設定をします。intra-mart e Builder for Accel Platform は、OSに設定されている環境変数を認識しない場合があります。IM-PDFCoordinator for Accel Platform を起動した際に、UnsatisfiedLinkErrorが発生することがあります。その場合は、intra-mart e Builder for Accel Platform 本体に環境変数を設定します。

intra-mart e Builder for Accel Platform 用の環境変数設定

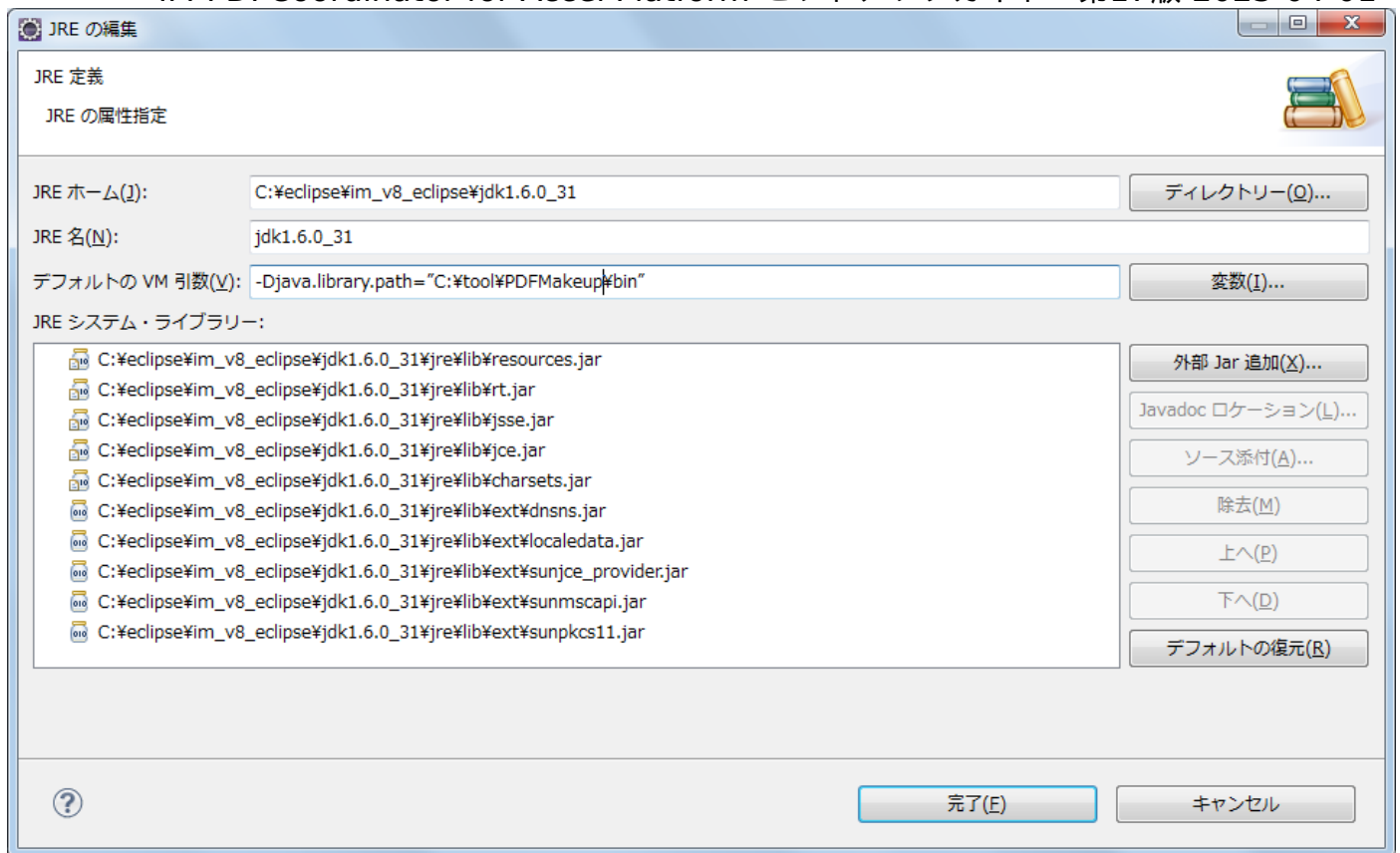
4. intra-mart e Builder for Accel Platform を起動します。
5. ウィンドウ→設定→Java→インストール済みのJRE を開きます。



6. 利用しているJDKを選択して、編集ボタンをクリックします。
7. デフォルトのVM引数に PDFメイクアップ のインストール先bin フォルダを指定します。

```
-Djava.library.path="C:\tool\PDFMakeup\bin"
```

8. 入力して、終了ボタンをクリックします。



9. 再度 intra-mart e Builder for Accel Platform からデバッグを実行ください。IM-PDFCoordinator for Accel Platform 付属のサンプルプログラムが正常に動作すれば環境構築は完了です。

コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。

連携エンジンバージョン



注意

次のバージョンは、必ず正しい組み合わせで運用してください。異なる組み合わせはサポート対象外です。

- intra-mart Accel Platform のバージョン
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform のバージョン
- 連携エンジンのバージョン

- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2023 Spring
 - IM-PDFCoordinator for Accel Platform
 - IM-PDFCoordinator FullPack for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2022 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2022 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Summer
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Summer
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2019 Summer
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2019 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2018 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2018 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Summer
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2016 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2016 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2015 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2014 Winter
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2014 Spring
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2012 Winter

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2023 Spring

IM-PDFCoordinator for Accel Platform

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.3.0

PDFメイクアップ Linux版 4.1.3.0

IM-PDFCoordinator FullPack for Accel Platform

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.3.0

PDFメイクアップ Linux版 4.1.3.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2022 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.3.0

PDFメイクアップ Linux版 4.1.3.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2022 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.0

PDFメイクアップ Linux版 4.1.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.0

PDFメイクアップ Linux版 4.1.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Summer

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.1.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2021 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.0.6

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.0.6

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Summer

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.0.3.6

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2020 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.0.3.6

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2019 Summer

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版
4.0.1.0.7

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2019 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版
4.0.1.0.3

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2018 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 4.0.0.11

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2018 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.8.6.2

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.8.6.1

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Summer

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.8.6

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2017 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.8.2

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2016 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.7.1

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2016 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.7.1

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2015 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.4.1

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2014 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.3.0

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2014 Spring

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 3.0.0.3

IM-PDFCoordinator for Accel Platform 2012 Winter

連携エンジン

PDFメイクアップ Windows版 2.8.1

IPAフォント の切替方法

IM-PDFCoordinator for Accel Platform Linux 版でのデフォルトのフォントは、IPAフォント です。

デフォルトのIPAゴシックでは、数字の「0(ゼロ)」に斜線が入っています。

斜線が入っていない旧版のIPAゴシックへの切替手順について示します。

1. ターミナルを起動し、< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts >へ移動します。
< %PDFMAKEUP_HOME% >を< /usr/local/pmu >として説明します。

```
$ cd /usr/local/pmu/etc/fonts
```

2. 既存のIPAゴシックのフォントファイル< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/ipag.ttf >を削除します。

```
$ rm /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag.ttf
```

3. 旧版のIPAゴシックのフォントファイル< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/ipag_old/ipag.otf >を、< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts >にコピーします。

```
$ cp /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag_old/ipag.otf /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag.otf
```

4. 次のコマンドを実行します。

```
$ ./mkpfont.sh
```

5. < %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/pfont.txt >に、旧版のIPAゴシックのフォントファイル< ipag.otf >の記載があることを確認します。
6. 動作確認を実施し、出力した帳票に差し替えたフォントが適用されていることを確認します。

コラム

上記、差し替えた旧版のフォントファイルを差し戻す場合の手順は、次の通りです。

1. ターミナルを起動し、`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts >`へ移動します。
`< %PDFMAKEUP_HOME% >`を`< /usr/local/pmu >`として説明します。

```
$ cd /usr/local/pmu/etc/fonts
```

2. 旧版のIPAゴシックのフォントファイル`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/ipag.otf >`を削除します。

```
$ rm /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag.otf
```

3. 新版のIPAゴシックのフォントファイル`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/ipag_new/ipag.ttf >`を、`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts >`にコピーします。

```
$ cp /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag_new/ipag.ttf /usr/local/pmu/etc/fonts/ipag.ttf
```

4. 次のコマンドを実行します。

```
$ ./mkpfont.sh
```

5. `< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/pfont.txt >`に、新版のIPAゴシックのフォントファイル`< ipag.ttf >`の記載があることを確認します。

6. 動作確認を実施し、出力した帳票に差し替えたフォントが適用されていることを確認します。

フォント埋め込み設定

IPAフォント 以外のフォントを使用する場合の、フォント埋め込み設定の手順を示します。

1. ターミナルを起動し、`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts >`へ移動します。
`< %PDFMAKEUP_HOME% >`を`< /usr/local/pmu >`として説明します。

```
$ cd /usr/local/pmu/etc/fonts
```

2. フォントファイルを`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/ >`にコピーします。

```
$ cp /tmp/xxxx.ttf /usr/local/pmu/etc/fonts/xxx.ttf
```

3. 次のコマンドを実行します。

```
$ ./mkpfont.sh
```

4. `< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/pfont.txt >`に、追加されたフォントファイルの記載があることを確認します。

5. 動作確認を実施し、出力した帳票に差し替えたフォントが適用されていることを確認します。

注意

`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/pfont.txt >`に登録したフォントのみ使用可能です。

登録外のフォントは、`< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/prop/jp.sjis/locale.prop >`の設定に従い置換します。

注意

コマンド引数の文字列、コマンド引数で指定するファイルの文字コードは UTF-8 にしてください。

また、出力されるログファイルは全て UTF-8 です。



注意

< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/prop/jp.sjis/locale.prop >の< wfonthz >に設定されたフォントは、< %PDFMAKEUP_HOME% /etc/fonts/pfont.txt >へ登録してください。

登録していない場合、エラーが発生します。



コラム

デフォルトのIPAゴシックでは、誤読しやすい文字との判別をしやすいするため、数字の「0(ゼロ)」に斜線が入ったデザインを使用しています。

数字の「0(ゼロ)」に斜線が入っていないデザインのフォントを使用する場合は、「[IPA フォントの切替方法](#)」を参照しフォントを変更してください。

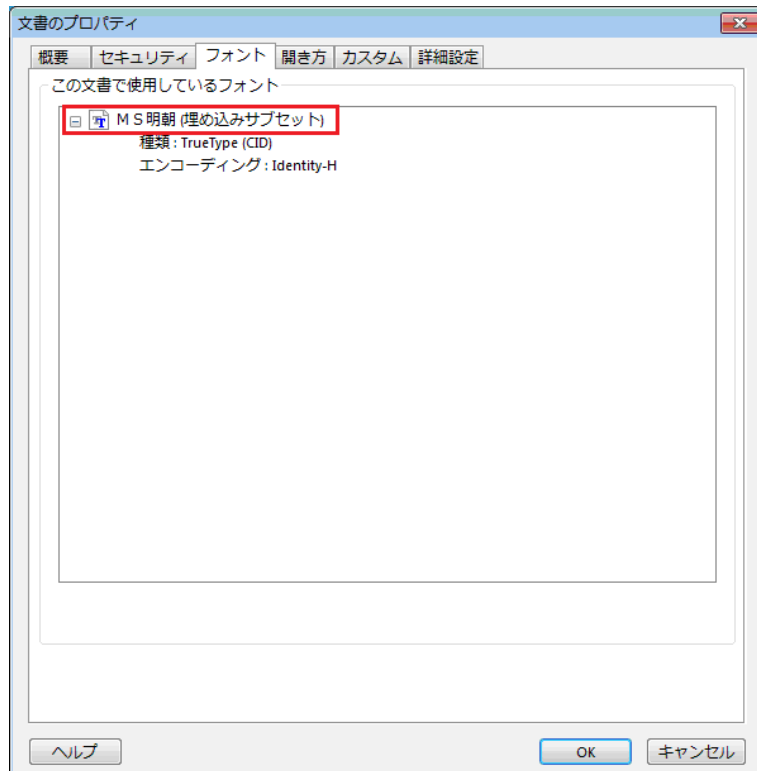
フォント埋め込みの確認

フォント埋め込みの確認手順を示します。

1. フォントを埋め込んだPDFファイルを Adobe Acrobat Reader で開き、「ファイル」-「プロパティ」をクリックします。

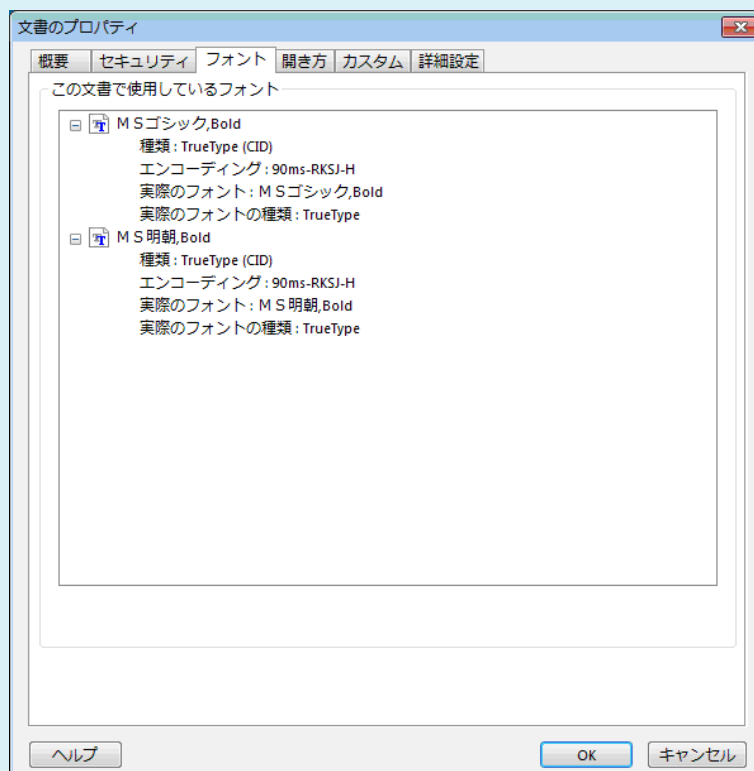


2. 「文書のプロパティ」画面が表示されるので、「フォント」タブをクリックします。
フォントが正しく埋め込まれている場合、フォント名の右側に「埋め込みサブセット」と記載されています。



コラム

正しく埋め込まれていない場合、フォント名の右側に「埋め込みサブセット」の記載がありません。



3. 「英数字/日本語」以外も含め全ての文字が正しく表示されているかを確認します。

